

国語 第3学年 言葉について考えよう

検討会の想定問答

指摘 1：この単元で身に付けることは何か。

返し：様子、行動、気持ちを表す言葉を比べ、自分が伝えたい場面に合う言葉を選ぶ。強い言葉や難しい言葉ほどよいと考えず、読み手が思い浮かべる様子の違いを確かめる。B(1)エの学習として、言葉の選び直しノート。元の表現、選んだ表現、伝わる様子の違い、選んだ理由を残す。

指摘 2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、伝えたい場面に合う語句を選び、相手に伝わる表現になっているか確かめて文章を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。B(1)エの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘 3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：言葉の選び直しノートを残す。元の表現、選んだ表現、伝わる様子の違い、選んだ理由を残す。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、B(1)エに関わる学習の中身を確認する。

指摘 4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：語句を増やすために意味の重なる言葉を重ねる。自分では見ていない動作や気持ちを付け足す。これについて、元の文と語句を替えた文を並べて読み、どの言葉からどんな様子が伝わったかを読み手が話す。言葉の意味が曖昧な場合は辞書で使い方を確かめ、児童の体験に合う例文を作る。〔知識及び技能〕(1)ア・〔知識及び技能〕(1)オとB(1)エを切り離さず扱う。

指摘 5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「言葉を替えると、読む人に伝わる様子はどう変わりますか。自分が見たことや思ったことに近いのはどちらですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、B(1)エに関わる根拠を話し合う。

指摘 6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘 7：端末がない学級でもできるか。

返し：言葉の選び直しノートは紙に記録できる。元の表現、選んだ表現、伝わる様子の違い、選んだ理由を残す。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をB(1)エの評価の代わりにしない。

指摘 8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は光村図書出版の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。B(1)エで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘 9：語彙の多さをどう評価するか。

返し：〔知識及び技能〕(1)ア・オを語句の数で判定しない。意味を確かめ、場面に合う語を使えたかを、書き直し前後と理由から見る。B(1)エは本案の関連事項として扱う。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「言葉を替えると、読む人に伝わる様子はどう変わりますか。自分が見たことや思ったことに近いのはどちらですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。B(1)エに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

